

中山道まめ知識

旅は「物見遊山」が一般的
行李をかついでるか遠路へ

庶民の一般的な旅は、寺社参詣や温泉場の湯治など「物見遊山」が一般的。旅をするのは経済的・時間的に余裕のある人たちが大半で、長丁場にわたることが多かった。半纏(はんてん)や襦袢(じゅばん)に合羽や行李(こうり)、提灯が必需品。



12 じぞうどう
地蔵堂

鴻巣市箕田

中宿橋を経て、忍行田道がわかれる追分の左側が中山道。その路傍に地蔵堂が見えてくる。古びた祠が、長い歴史を物語る。



11 みたおいわけ
箕田追分

鴻巣市箕田

鴻巣宿から一里ほど行くと、箕田村の追分に着く。ここから北の道は三ツ木・川面を経て、忍(おし)や館林城下へと向かう。

資料館の利用案内

雑屋歴史資料館 ●鴻巣市人形1丁目4番21号 ●TEL 048-541-1451
●開館時間 9:00~17:00 ●入館料 一般500円・学生200円
●休館日 木曜日・旧盆中

吹上郷土資料館 ●鴻巣市南1丁目10番5号 ●TEL 048-548-3696
●開館時間 9:00~16:30 ●入館料 無料
●休館日 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・第2、第3、第4曜日



岐岨街道 鴻巣 吹上富士遠望
 深斎英泉画。吹上村から熊谷に向かうあたりの風景。左手には虚無僧（こむそう）の姿も。



13 いちりづかあと
一里塚跡

鴻巣市前砂

中井のあたりは一面の田園風景で、その昔は富士山も望めたという。吹上町に入るとすぐ左手に一里塚の史跡がある。



14 みょうけんじぞうどう
妙見地蔵堂

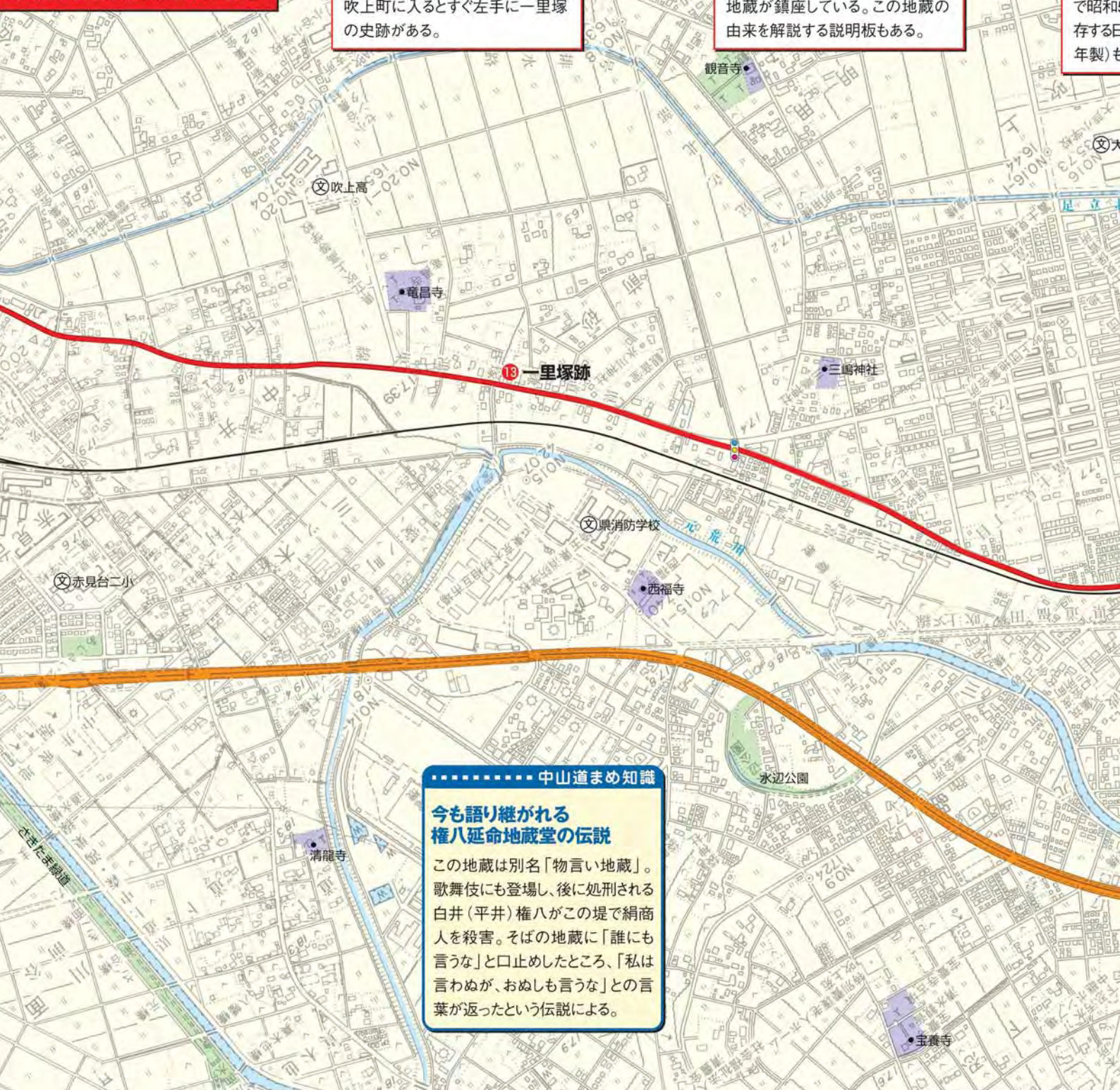
鴻巣市本町1丁目

踏切を越えて左折すると、左手には妙見地蔵堂があり、小さな祠に地蔵が鎮座している。この地蔵の由来を解説する説明板もある。



15 ふき
吹上

鴻巣市
 江戸時
 具を中
 で昭和
 存する日
 年製も



..... 中山道まめ知識

**今も語り継がれる
 権八延命地蔵堂の伝説**

この地蔵は別名「物言い地蔵」。歌舞伎にも登場し、後に処刑される白井（平井）権八がこの堤で絹商人を殺害。そばの地蔵に「誰にも言うな」と口止めしたところ、「私は言わぬが、おぬしも言うな」との言葉が返ったという伝説による。



15 吹上郷土資料館
 吹上1丁目
 代以降の生産道具・生活用品を中心とした資料館。また吹上駅1959年まで使用されていた、現存する日本最古の鉄道用レール(1882年)も展示されている。



16 東暉寺
 とうようじ
 鴻巣市本町4丁目
 明治9年(1876)の火災によって焼失、その後再建された。墓地には寛永、正保銘の宝篋印塔が見られるが、正確な創建の年は不明。



17 吹上神社
 ふきあげじんじや
 鴻巣市本町4丁目
 東暉寺に隣接する吹上地区の鎮守。明治40年(1907)に、上分の山王社、中分の稲荷社、下分の氷川社の3社が合祀されてきた。



19 権八延命地蔵堂
 ごんぱちえんめいじぞうどう
 鴻巣市荊原
 荒川土手の手前にひらき地蔵堂には、その昔権八(平井)権八といふに口封じをした伝説が



18 八王子千人同心街道
 はちおうじせんにんどうしんかいどう
 鴻巣市鎌塚2丁目
 本町交差点を右折すると、関東7名城のひとつ、忍城への忍道(旧道)となる。忍城の築城は文明年間あるいは延徳年間頃とされている。



蔵堂

つとそりと建つ
殺人を犯した
う男が、地蔵
まつわる。



20 くまがやづつみ 熊谷堤

熊谷市久下

荒川の洪水を防ぐため、天正年間に鉢形城主の北条氏邦が築いたとされる熊谷堤。明治16年(1883)の植樹を機に桜が1000本近くに増え、関東屈指の桜の名所となった。その後戦災などでその大半が失われ、現在桜の木は1本もない。



21 くげいちりつかあと 久下一里塚跡

熊谷市久下

一里塚跡は荒川土手の下に位置し、土手の中腹あたりが中山道の通っていた所。この手前50mほど熊谷寄りには馬頭観音がある。





22 久下神社

熊谷市久下

右手に建つ久下村の鎮守。明治43年(1910)に三島明神と周辺の10社を合祀、さらに大正2年(1913)14社を合祀し、この名になった。

..... 中山道まめ知識

荒川とともに歩んだ久下は舟交通の拠点として繁栄

鎌倉時代に久下権守直光の領地であったためこの地名が根づいた。江戸時代、忍藩領下であったこの地は荒川の氾濫で幾度も大きな被害を受ける。しかし川筋の全面改修を行ったことで舟の交通が発達し、物資の集積地として栄えた。



23 権八地蔵

熊谷市久下

堤に上る旧道の右手に建つ地藏堂は、元禄11年(1698)にできたもの。権八延命地藏堂と同じ由来をもつが、どちらが本物かは不明。

